

会議・打合せ等記録

部 長	課 長 等	係 長 等	担 当	回 覧

報告日：令和3年12月6日

名 称	令和3年度第3回鹿沼市環境審議会		
日 時	令和3年12月2日（木） 午後1時55分～午後2時50分		
場 所	特別会議室（市役所3階）		
出 席 者	別紙のとおり		
内容及び 結果等	1 開会（司会：小太刀係長）		
	2 会長あいさつ（鈴木会長）		
	3 議題（進行：鈴木会長）		
	（1）協議事項		
	ア 第5次鹿沼市環境基本計画等の策定について		
	（2）その他		
	4 閉会		
配布資料	別紙のとおり		
次回予定	3/8 第4回環境審議会		
記 録 者	羽石		
鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条に基づく審議会等の公開状況 (該当する審議会等以外の会議・打合せ等については記入不要)			
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開	・ 非公開	(公開の場合) 傍聴人数
			0人

令和3年度第3回鹿沼市環境審議会会議記録

委員氏名	鈴木	廣田	大出	松島	森	小島	福田(義)	大金	安達	福田(昌)	加藤	橋本	福田(和)	神山	渡邊
出欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○

【事務局】

- 事務局……黒川部長、関口環境課長、小太刀環境政策係長、山本主査、羽石主任主事
高木主事
- 環境課……鳩山環境保全係長
- 廃棄物対策課……金子廃棄物対策課長、萩原廃棄物対策係長、渡邊施設係長

1 開 会

2 会長挨拶

先日、「脱炭素投資」に関するニュースを見かけた。内容は、中小企業が二酸化炭素排出量の削減に資する設備を導入した場合、最大で5,500万円を国が補助するというもの。

これまで、環境施策の展開は、経済成長の制約になると考えられてきた。近年では、環境への取組は、「経済成長の源泉」と言われるようになった。脱炭素投資や取組は、世界的にも徐々に浸透してきたと感じている。

現在、策定作業を行っている第5次鹿沼市環境基本計画においても、環境と経済の好循環を生み出していくことが必要であると示されている。改めて、社会全体で環境に配慮した取組をさらに強力に進めていかなければいけないと考えている。

昨年10月に、計画の策定にかかる諮問を受けて以降、審議を重ねてきたが、いよいよもって最終段階に入った。本日もにおいても、委員の皆様から積極的なご発言をお願いしたい。

3 議 事

(1) 競技事項

ア 第5次鹿沼市環境基本計画等の策定について

事務局：《羽石主任主事が資料1により説明及び事前質問への回答》

鈴木会長：何か質問等あるか？

大出委員：国による省エネ住宅建築に係る補助金があるようだ。最大で100万円ということだが、住宅リフォーム助成と併用することは可能か。

事務局：恐らく国土交通省が来年度から実施する省エネ住宅への助成のことだと思うが、

詳細は未発表であるためわからない。鹿沼市の助成は、既築住宅のリフォームへの助成となり、他の補助金との併用はできない。

梶原委員：前回の審議会の中でも、会議資料のペーパーレス化についての提案があったが、計画の本文中に記載がない。今後5カ年の計画ということで、計画の中に盛り込むべきと思うがいかがか。

事務局：計画案の中では、「デジタルを活用した業務の省資源化」ということで、ICTを最大限活用した行政サービスの効率的な提供に努めていくと記載している。本日頂戴した意見をふまえ、関係部局と調整の上、表現及び反映の仕方について協議する。

渡邊委員：生物多様性の保全に係る個別目標「生きもの観察会参加者数」について、この数字は、恐らく環境部局のものだけだと思うが、実際は他の部署においてもこうした取組を実施している。他部局の実績を掲載しないのはもったいないと思う。

事務局：ご指摘の通り、掲げている現状値や目標値は、環境部局のもののみである。環境部局の他にも、経済部局、教育委員会事務局においても、生きもの観察会を実施していると聞いている。現状値の集約及びそれぞれの活動の目標値設定が可能かどうかを関連部局と協議し、計画への記載を検討する。

鈴木会長：鹿沼市の環境基本計画であるので、他部局の値も網羅した内容となるのが望ましいが、集約ができないということであれば、環境部局に限定した目標値であることを明記することで、誤解を防げるかと思う。

森委員：栃木県と各市町及び地域住民が連携・協力して実施する「愛リバーとちぎ」及び「愛ロードとちぎ」という取組がある。環境保全に関する最上位の計画であるということで、ぜひ計画の中でも情報発信として取り上げるべき。

事務局：数値目標を掲げるなどは難しいかもしれないが、事業の概要や方向性の記載について、担当部局に確認し調整する。

鈴木会長：活動の周知にも繋がる。ぜひ前向きに検討されたい。

大出委員：近隣地域では、新築住宅の建築が目立つ。しかし、敷地の緑化が進んでいないように感じる。地域団体による花いっぱい運動などは推進されているが、個人向けにも意識啓発が必要ではないか。

事務局：事前質問回答にも記載したが、市のリフォーム助成は造園や植栽も対象となる。こうした助成制度を活用しながら、住環境の整備を推進していきたい。

鈴木会長：その他、質問等あるか？了解するということで良いか？

一 同：《異議なし。》

(3) その他

鈴木会長：委員から何か質問等あるか？

大出委員：3Rを推進していく上で、正しい情報の周知が不可欠。ごみの分別に関して、どういったごみが資源となるか、再利用できるかを発信していくことが必要。

事務局：ごみの種類も豊富になってきており、ご指摘の通り、リユースやリサイクルが

可能かどうかを判断することは非常に難しくなっている。毎年実施している出前講座の中で、見分け方のポイントや具体例などを盛り込み、日常のごみ分別に役立つ内容となるよう努める。

梶原委員：本日配布されたスポ GOMI 大会について、詳細を聞きたい。

事務局：県と県内全市町で行った「栃木からの森里川湖プラごみゼロ宣言」に基づく県との共催事業である。あらかじめ定められたエリア内においてゴミ拾いを行い、その重さと種類で競いあうスポーツとなっている。廣田委員、橋本委員のお力添えをいただき、現在 100 名弱のお申込をいただいている。まだ若干の空きがあるので、ぜひ参加を検討されたい。

齊藤委員：令和 2 年における鹿沼市の 1 人あたりのごみ排出量が過去最多ということで衝撃を受けた。栃木県の数字を比較対象として用いるなど、注目してもらう情報発信の方法を見いだすことが重要。

事務局：コロナの影響により、自宅にいる時間が増えたことで、ごみの排出量が増加したと考えられる。市としてもごみ排出量の削減は、最重要課題の一つと捉えている。次期廃棄物処理計画では、令和 8 年度までに 5 % 減らすという目標を掲げる予定。そのために、これまで以上にごみ分別の徹底を促していく。特に、プラスチックごみの分別徹底に関して、あらゆる機会を活用して情報発信に努めていく。

大出委員：ごみの削減に関して、黒川東側と西側で排出量を競うといった取組も面白い。ごみを減らすきっかけを作ることが重要。

事務局：ごみ減量施策の一つとして検討したこともある。地域の自治会との協力体制も必要になる。手法の一つとして、検討したい。

松島委員：ごみの排出量を減らす上で、どれだけ減らせばいいかを具体的に示すことで、普及啓発の効果は高い。例えば、卵 2 個分などというように。私だけなら良いかとならないように、簡単な例を用いて発信すると良い。

事務局：引き続き、プラスチックごみの分別の周知と合わせて、啓発の発信内容を工夫していく。

大出委員：油の容器やドレッシング容器などは、なかなか汚れが落ちないため、分別ができない。何か対策はあるか。

事務局：利便性追求で様々なプラスチック製品が増えている。ごみの処分方法も踏まえた製品開発が進むよう、国や関係団体への要望を行っていきたい。

鈴木会長：その他何かあるか？

事務局：次回の会議は、来年 3 月 8 日（火）午後 2 時から、市役所 3 階の特別会議室で行う予定。当日は、市長に対し最終案の答申を行う。詳細は、別途通知にてご案内する。

鈴木会長：その他何かあるか？

一 同：なし。